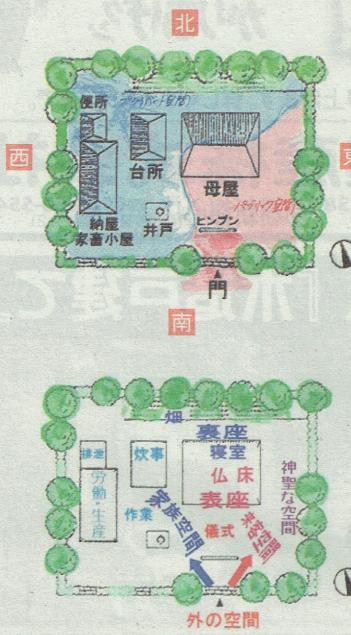




住宅の門の位置は、仏壇から見て正面にくるように配置されました。門から入ってくる「氣エネルギー」が直接仏壇に向かってこないよう、ヒンパンが設けられています

伝統的な琉球民家 陰陽空間と機能



パブリック空間（赤で色づけ）である「表座」は、光に恵まれ、明るく、にぎやかで活動的な南側に配置。一方、プライベート空間（青で色づけ）である「裏座」は、日当たりが弱く、落ち着いて静かな北側に配置されている。

表座は、南側一体が大きな開口部となつており、明るくも強過ぎない光、夏の南風といった、心地よい自然の「氣エネルギー」が入つてくる快適な空間です。来客を迎える空間として、また神仏を祭る空間として機能していました。東側より一番座、二番座、三番座と呼びました。

表座の東側にある一番座は、奥（北）側に床の間が設けられ、最も格式が高く、正式な客をもてなす空間でした。東方は太陽が昇る聖域で、神聖な方角と考

来客を迎える神仏を祭る

琉球民家では、母屋の空間を前後に横分割し、前室（南側）を表座、後室（北側）を裏座としました。表座はパブリック空間として、裏座はプライベート空間として機能していました。

■ 琉球民家のパブリック空間「表座」

良い氣に入る最も心地よい空間

家族は北側の裏座で生活

一方、家族は暗くて寒い後室（北側）で生活するのが普通でした。ぜいたくを戒め、つましゃかな生活を美德とするという当時の価値観も、家造りや暮らし方に反映されています。琉球民家は、周辺環境の山の位置や水の流れ、太陽の動き、季節風の向きなどに配慮し、自然との調和を大切にする風水の知恵を取り入れてきました。しかし、その背景には、当時の信仰や風習なども強く影響しており、一概に風水理論だけで、琉球民家を解説することはできません。

時代の変化に伴い、科学技術

えられてきました。一番座は、東南の角部屋にあたり、採光、通風、眺望が最も良い部屋です。表座の中心にある二番座は仮間で、親族や親しい友人が集う空間です。仏壇は、母屋の中心付近に位置しています。家の中心は太極とも呼ばれ、最も「氣エネルギー」が集中しパワーの強い場所。そのため、仏壇を住宅の中心付近に置くのが道教や風水の考え方です。沖縄では、今でも仏壇の位置を決めてから家造りをする習慣が残っています。心は太極とも呼ばれ、最も「氣エネルギー」が集中しパワーの強い場所。そのため、仏壇を住宅の中心付近に置くのが道教や風水の考え方です。沖縄では、今でも仏壇の位置を決めてから家造りをする習慣が残っています。心地よい家造りの方法も、時代の変化を続けています。琉球風水を目指すのは、現代のライフスタイルの中で、自然と調和しながら氣の流れを整え、そこに住む人が心豊かになる環境を整えることです。現代住宅では、客間としての空間を特別に設ける場合は少なく、家族が過ごすリビング・ダイニングが客間を兼ね、来客を迎えるパブリック空間となつているケースが多いと思います。次回は、現代住宅の中でパブリック空間として機能している、リビング・ダイニングの考え方についてお話しします。

琉球アロマと風水ですっきり

執筆／横川明子
(アロマ空間デザイナー・琉球風水スクール「アムリタ」主宰)



よこかわ・あきこ／東京都出身。マリンサファイア合同会社代表。アロマ空間デザイナー。和来龍氏に師事し、琉球風水を学ぶ。講師や新築住宅などの風水鑑定を行っている。☎098-943-6948(受付時間/月～金10時～16時、土日祝休み)。HP <http://aromarine.jp> ブログ [http://ameble.jp/marine-sapphire/](http://ameblo.jp/ameble.jp/marine-sapphire/)